任天堂　ファミリーコンピュータ

宇宙警備隊　取扱説明書

隊員手帳

HAL-U1

HAL Laboratory

このたびは、ＨＡＬ研究所のファミリーコンピュータ用ソフト「宇宙警備隊」をお買い上げいただき、まことにありがとうございました。ご使用になる前に、この“隊員手帳”をよくお読みのうえ、正しい使用法でお楽しみください。なお、この“隊員手帳”は大切に保管してください。

宇宙警備隊員７箇条

第１条　カセットを交換するときには必ず電源を切ること。

第２条　精密機械なので、極端な温度下の使用や保管、また強いショックを与えるのは避けること。

第３条　端子部に手を触れたり水にぬらさぬように注意すること。

第４条　シンナー、ベンジン、アルコールなどの揮発油でふかないこと。

第５条　使用後は必ずＡＣアダプターをコンセントから抜いておくこと。

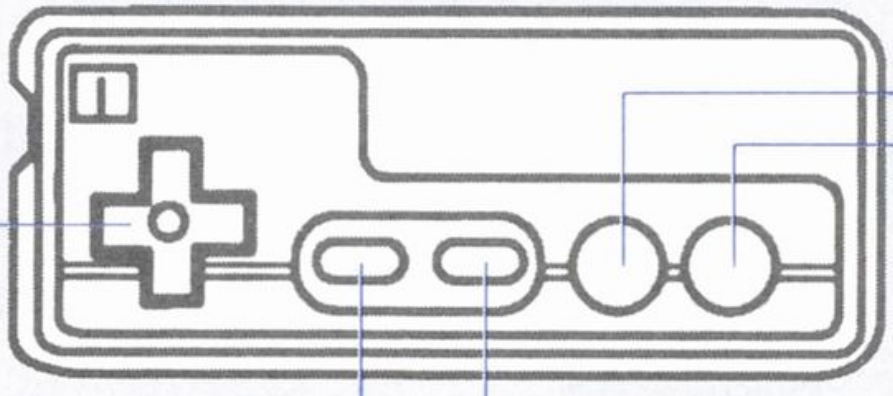
第６条　画面からなるべく離れてゲームをすること。

第７条　長時間戦うときには、健康のため、約２時間ごとに10～15分の休憩をとること。

●目次●

隊機の操従方法……1
宇宙警備隊の歴史……2
武器の扱かい方……4
武器一覧……5
戦地の予備知識……7
油断ならない敵たち……10
きっと役立つテクニック……12
隊員証……13

隊機の操縦方法



✣ボタン……ラウンドウェーバーを操縦する。
Aボタン……オプションを前後に付けかえる。
Bボタン……ショットを撃つ。
セレクトボタン…ゲーム中にポーズをかける。
スタートボタン…アイテムカプセルを誘導する。

ゲームの始めにABボタンとスタートボタンでゲームセレクト

宇宙警備隊の歴史

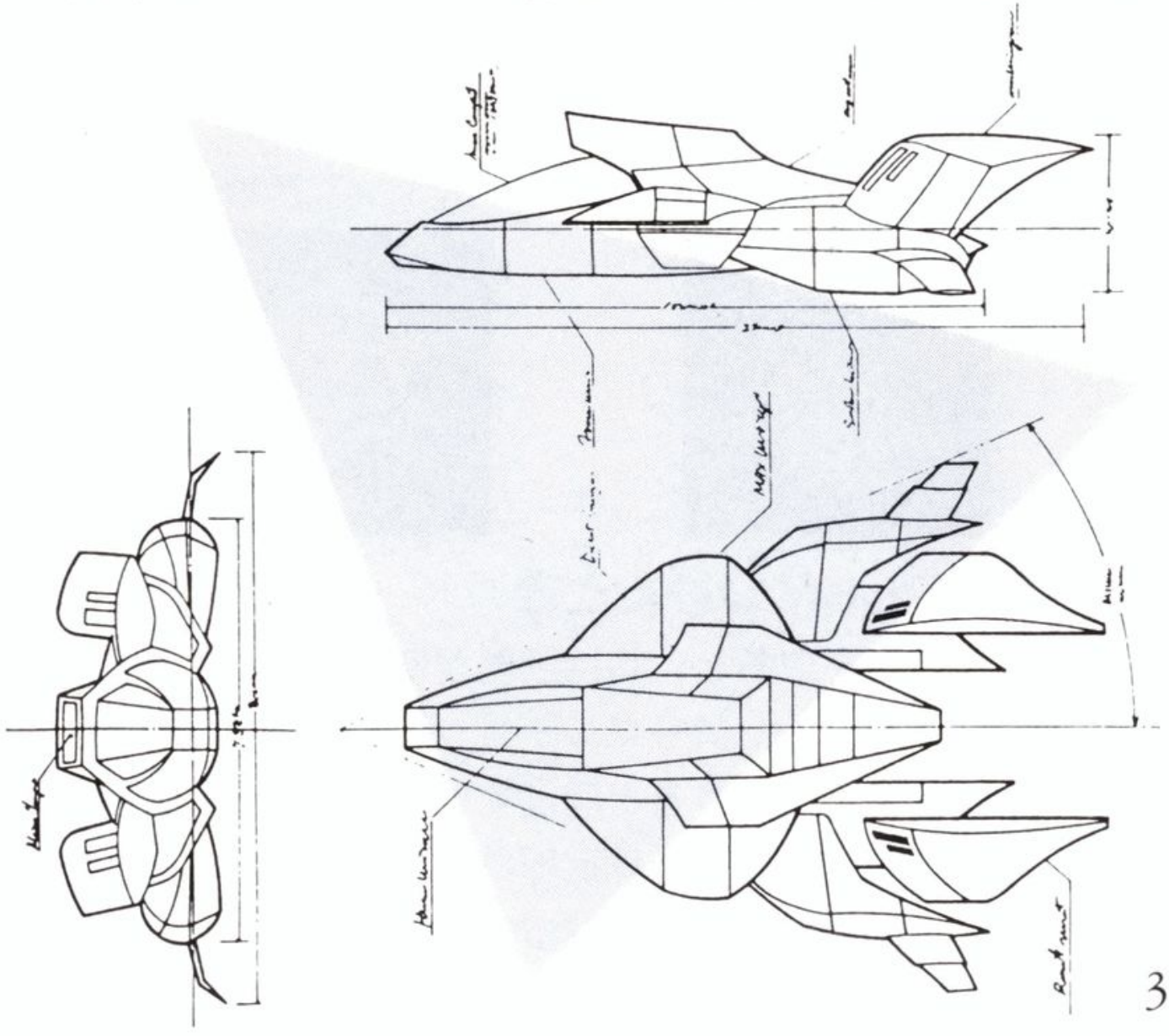
時代背景　西暦21XX年。地球の資源は枯渇し、大気汚染や大陸の砂漠化は進む一方であった。国境を越えて人類が団結し、科学力を駆使しても、もはや自然破壊をくい止めることは不可能だった。そこで人類はその行動範囲を宇宙へと広げ、太陽系の各所に工業プラントや、コロニー（宇宙都市）を築き、そこを宇宙での人々の生活拠点としたのである。宇宙へ進出してからの科学の進歩はめざましく、実用段階ではないもののワープ航法や人工重力の理論も発見されていた。最初は少数だった宇宙居住者も日進月歩の科学の進歩に夢を求めて日増しに増え、半世紀を過ぎる頃には国家を形成するほどになっていた。

…そんなある時。突然、海王星の外側に地球とほぼ同じ大きさの惑星が出現したのである。その惑星こそ、人類がはじめて遭遇する知的生命体であり、また侵略者である惑星生命体ゲルンガーなのだった。

ゲルンガーは宇宙鉱山やコロニーを占領し、資源の供給を断つばかりでなく、人類の存在をも脅かした。ゲルンガーを破壊に向かった宇宙警備隊もほとんど帰っては来なかった。

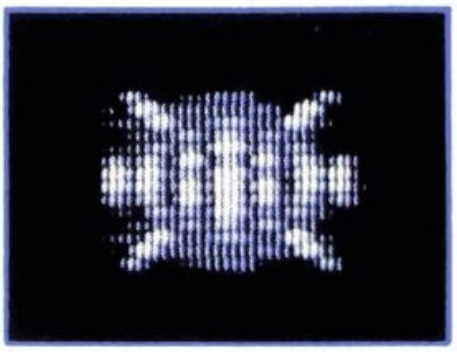
そして、ラウンドウェーバー最後の１機が、今飛び立とうとしている…

宇宙警備隊とは　未知の宇宙で生活する居住者や宇宙基地、都市を防衛するために発足した部隊である。科学の粋をつくして開発された高性能戦闘機ラウンドウェーバーを主翼に結成されている。その最後の１機に搭乗して、敵ゲルンガーを破壊するのが、優秀なパイロットであるキミに託された任務である。ゲルンガーから宇宙を取り戻すため、健闘を祈る。



武器の扱い方

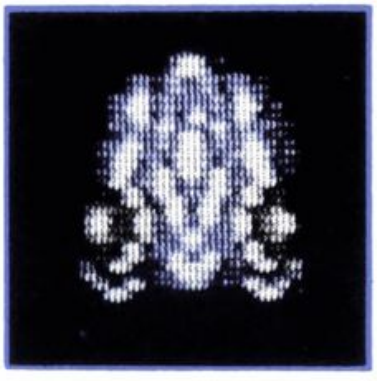
オプション



画面上に出現するカプセルを撃つと、中からアイテムが出てくる。攻撃アイテムを取ると、武器の種類に関係なくオプションが装着される。

オプションは、敵の攻撃に数回耐えられるが、一定以上敵の攻撃を受けると壊れてしまう。また、Aボタンを押すことによって、前後につけ替えが可能で、状況に応じて攻撃方法を変えることができる。

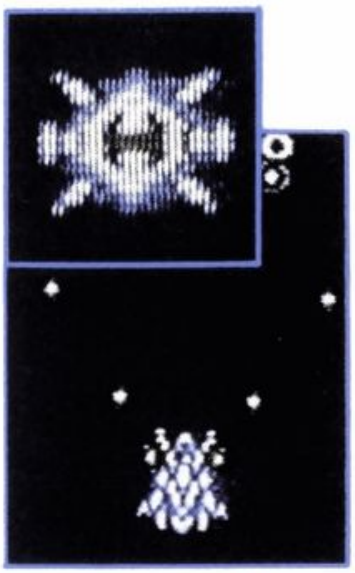
カプセルは動かないが、スタートボタンで誘導できる。



オプションを前につけたとき

攻撃アイテムを取ると、特殊武器が使えるようになる。オプションが壊れると、ノーマルショットしか撃てなくなるが、新しく攻撃アイテムを取ると回復する。その場合、武器のレベルは壊れる前に戻る。特殊武器は、同じ武器アイテムを続けて取ることにより３段階にパワーアップする。

武器一覧

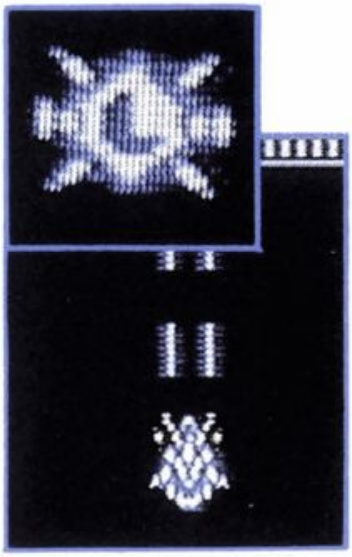


ハイパーショット

レベル１：前方２方向に斜めに弾が撃てるようになる。
レベル２：前方３方向、正面にも弾が撃てるようになる。
レベル３：前方４方向、中心の２本は破壊力が倍になる。

ＶＴ・ウェーブ

レベル１：左右水平方向にだけ弾が撃てる。
レベル２：水平方向に加えて、前方も攻撃できる。
レベル３：水平方向の弾がラウンドウェーバーの動きによって、前後に発射される。



パルスレーザー

レベル１：前方にレーザーが発射される。
レベル２：前方に２本のレーザーが発射される。
レベル３：前方に４本のレーザーが発射される。
レーザーはショットの２倍の破壊力がある。

武器一覧

オプションを後ろにつけたとき

前につけているときよりも自機のスピードが１段階アップする。また、武器のレベルによってミサイルが撃てるようになる。オプションが片方でも壊れてしまうとミサイルは使えなくなってしまうが、攻撃アイテムを取ってオプションが復活すれば壊れる前のレベルに戻る。

レベル１：ミサイルは使えずノーマルショットのみ。

レベル２：ミサイルが前方に発射できるようになる。

レベル３：前方に発射したミサイルが敵を追尾する。

その他のアイテム

スピードアップ

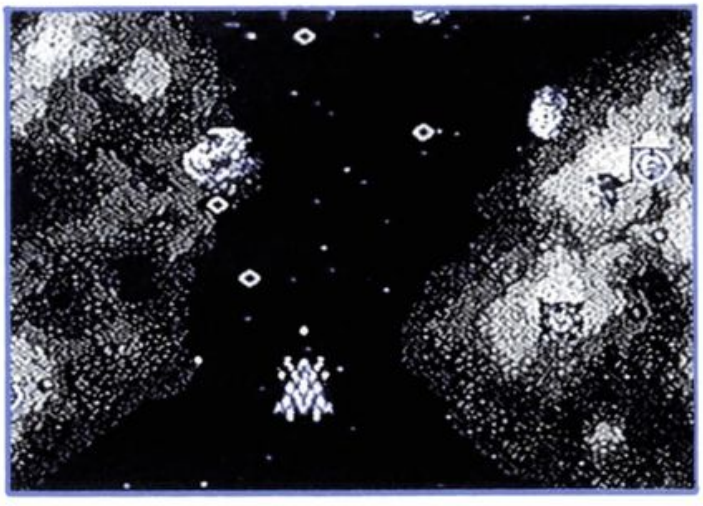
４段階まで自機のスピードが上がる。上げすぎるとコントロールが難しくなるので注意。

スピードダウン

自機のスピードを下げる。スピードを上げすぎたときや狭い場所に入るときに有効。

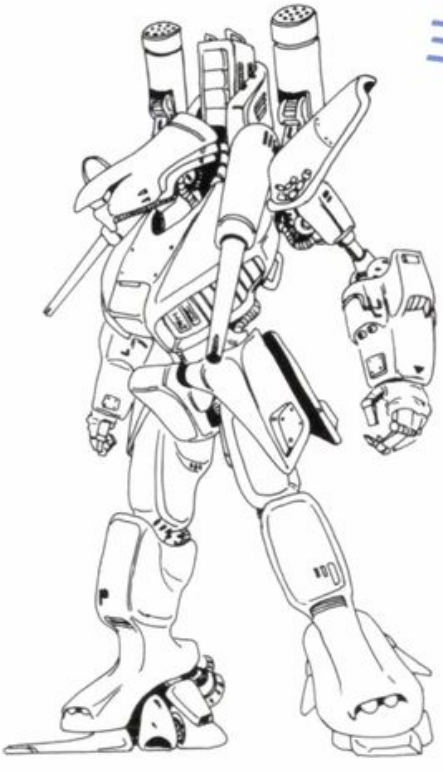
戦地の予備知識

1面：アステロイド



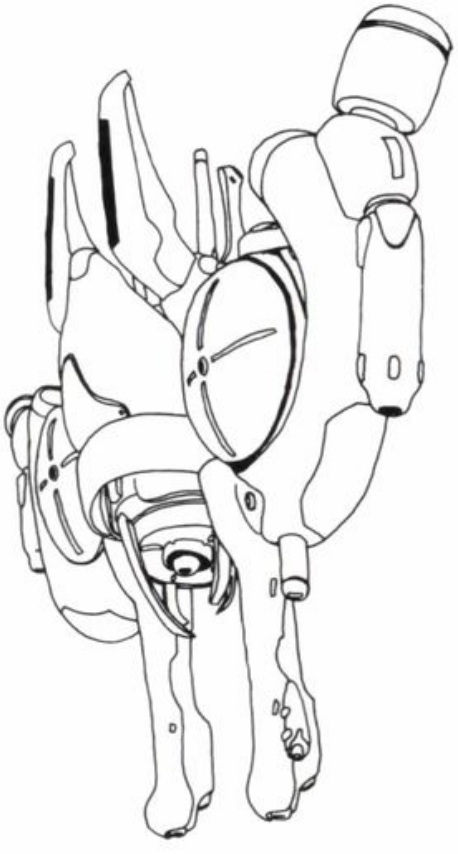
鉱物資源の採掘場だが、ゲルンガーの侵攻のため、精製工場や居住ブロックなどが建設中のまま放置されている。

工場地帯を抜けると、採掘用の隕石群が飛び交う、アステロイド（隕石地帯）になっている。ここを通り抜けるには細心の注意が必要である。



ミーテアライトガード

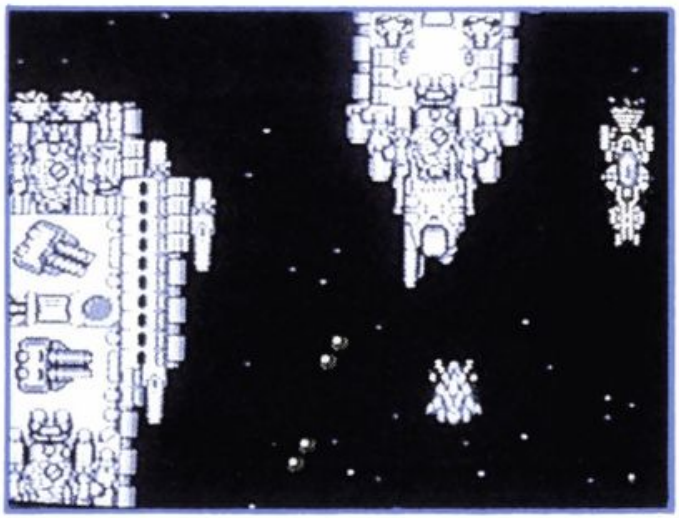
◀何者の侵入も許さない冷酷なハンター。防衛用ロボットとして作られたが、今はゲルンガーに操られている。



シルバーオウル

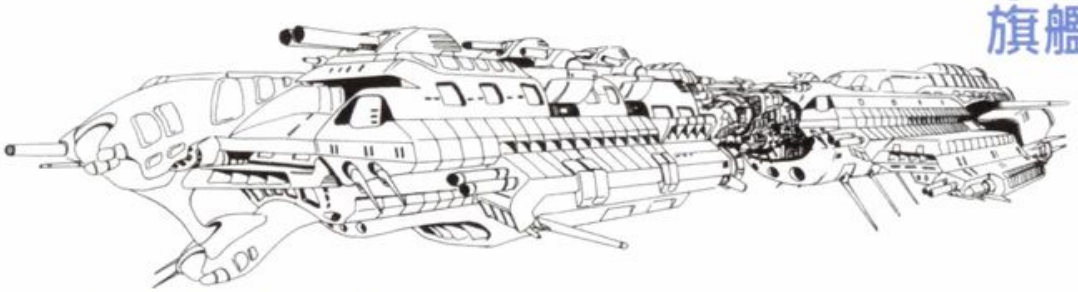
▶巨大なレーザー削岩機。強力なレーザーを発射するが、その発射口あたりが弱点らしい。この面のボスである。

2面：戦艦集結地区



ゲルンガーにコンピュータの指揮系統を制圧され、地球を攻撃に向かっている地球防衛軍の艦隊。自動制御されているので人間は誰１人として乗っていない。大戦艦ベテルギュースを旗艦として、戦闘空母、ミサイル艦などを含んだ大艦隊である。

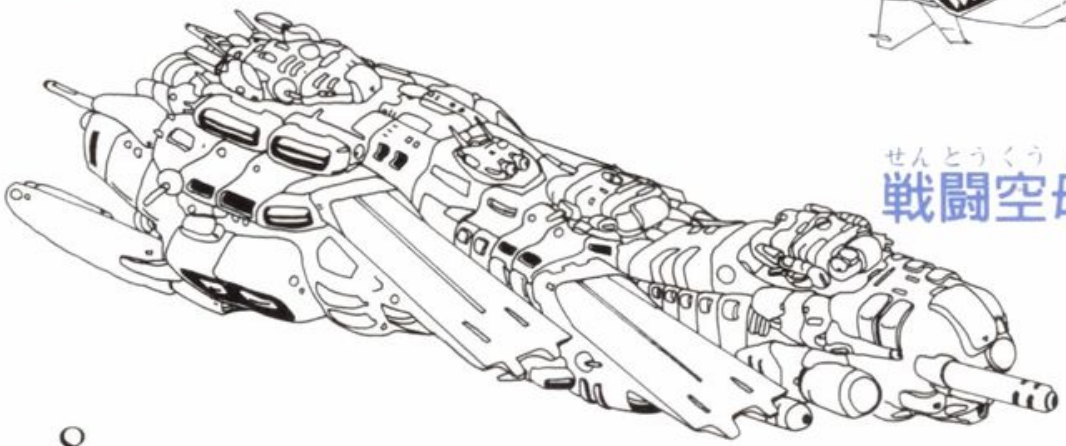
旗艦ベテルギュース



◀地球防衛軍最強の攻撃力を誇る最新鋭戦艦。

ネルウイング

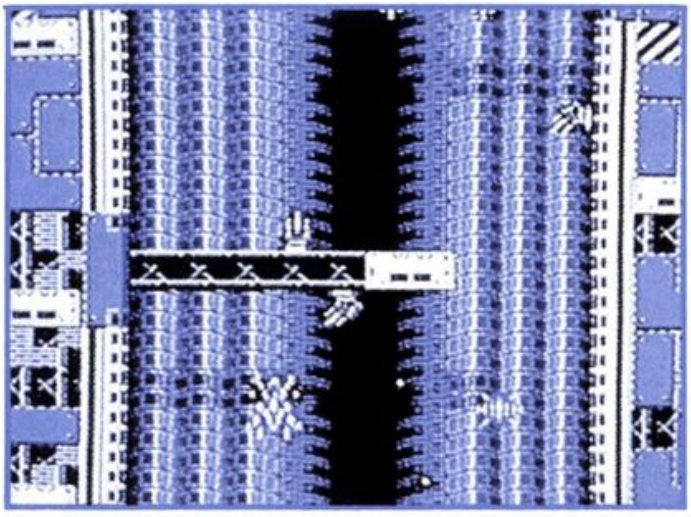
▶戦闘空母から次々と発進してくる戦闘機。



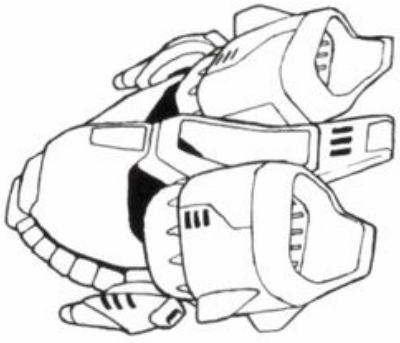
戦闘空母

◀２～４本の滑走路から戦闘機を送り出す。

3面：コロニーA

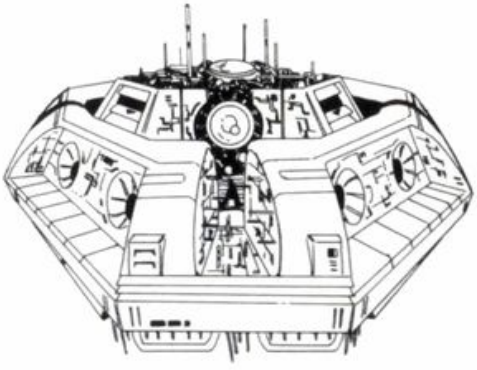


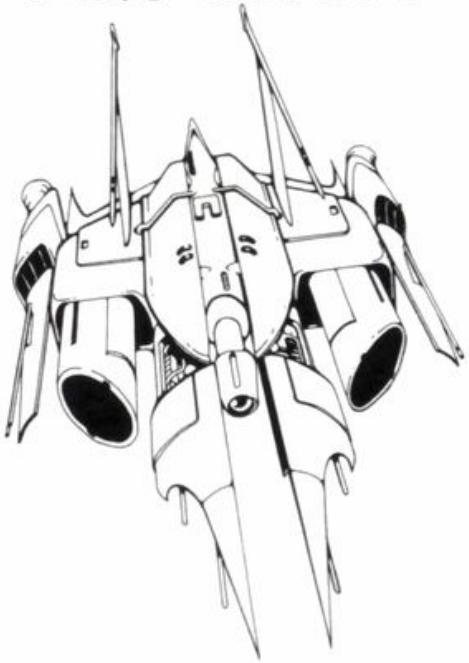
木星軌道上にあるコロニーA。建物を制御するバイオコンピュータがゲルンガーに支配されているため、ドック区画ではコロニーの防御システムから攻撃を受けることになる。奥の狭く入り組んだ動力区画では、ガス管から発射される炎に注意。



ワーポッド

▼ドック区画の防衛システム。破壊しないと先へ進めない。





トゥシャドー

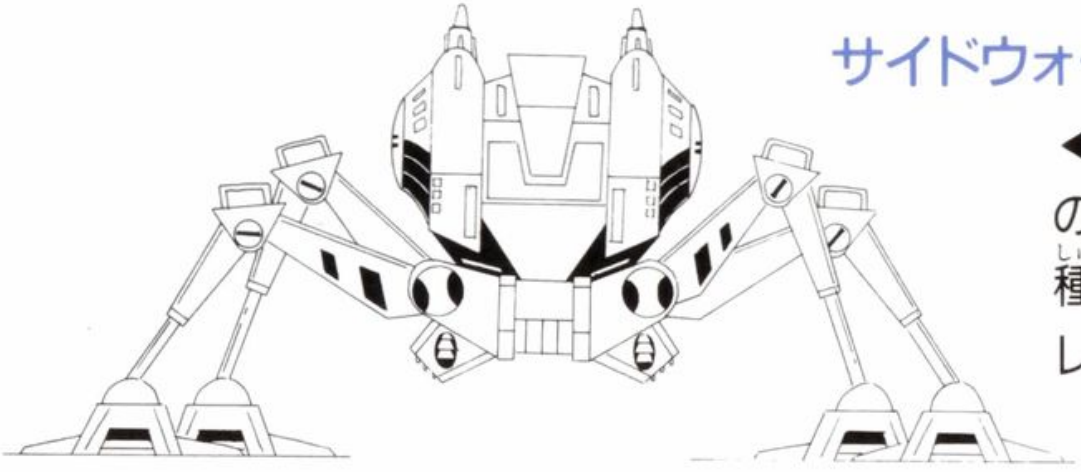
▲動力区画のガス管の間に住み着いてしまったゲルンガー星の寄生虫。

クリューガー

▲動力区画に待ち受けるボス。攻撃力、防御力ともに優れた攻撃移動要塞である。

油断ならない敵たち

ゲームを進めていくうちにキミは数々の未知の敵に遭遇するだろう。その中のいくつかをここで紹介しよう。

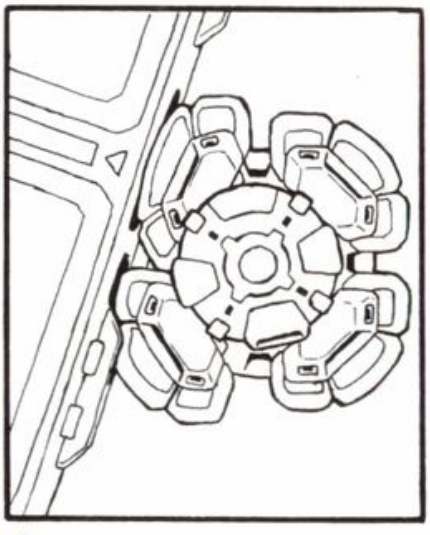


サイドウォーカー

◀コロニー閉鎖区間の防御システムの一種である、移動型のレーザーユニット。

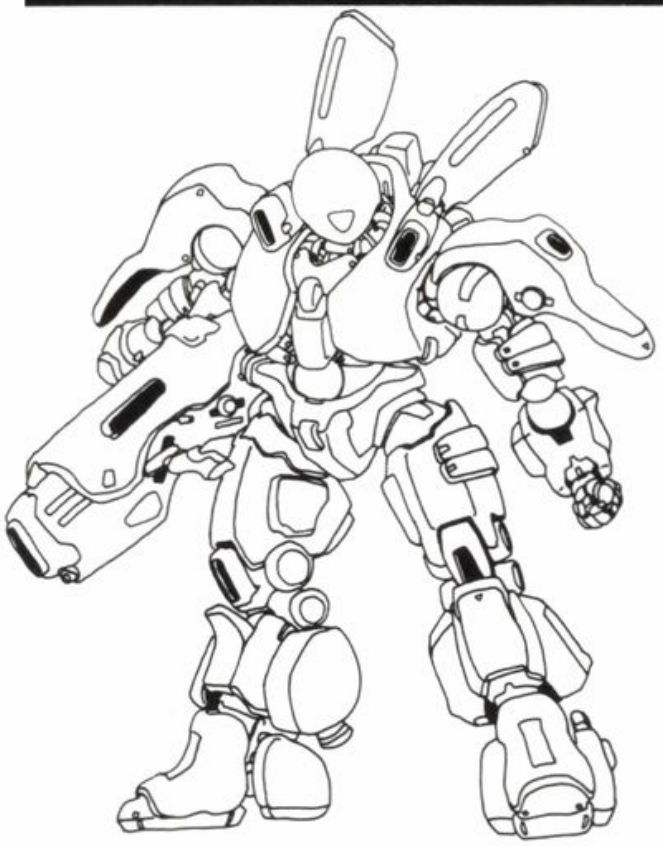
バイオヘルム

▼バイオドロームが生み出した巨大なカブトガニ。カッタービームという強力な武器を持っている。



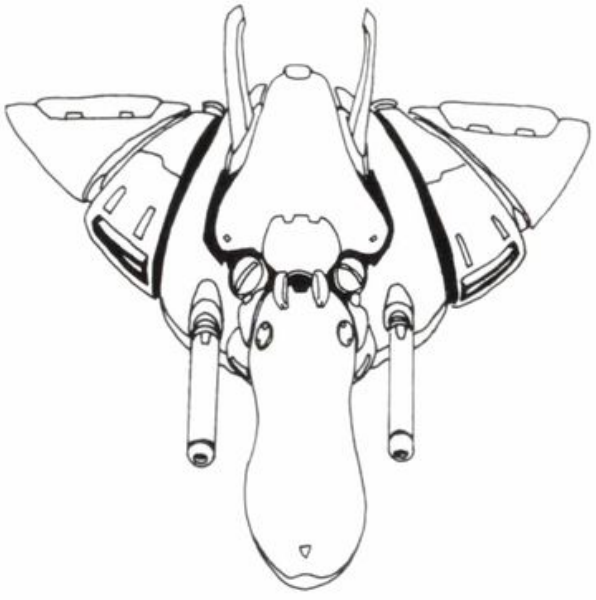
ペコタ

▲壁から壁へとびはねる防御用ロボット。廉価型のため多少欠陥があるらしい。



ライトギア

◀資源採掘用に作られたロボットをゲルンガーが強化武装して、攻撃用に改造したもの。



ホバーギア

▶コロニーのあちらこちらに配置されている、防御用のホバリングユニット。

Gユニット

▲赤い戦闘機。もとは地球防衛軍の戦闘機だったが、ゲルンガーによって自動操縦されている。

ここから先にどんな敵が待ち受けているかはまだよくわかっていない。後はキミたち自身の目で確かめてくれたまえ。

きっと役立つテクニック

1．狭い場所で敵に囲まれたとき。

Aボタンでオプションを敵にぶつけよう。このテクニックは、壁の隙間や柱の向こう側にいる敵にも有効だ。

2．ラウンドウェーバーの残機数を増やしたい。

敵をできるだけ多く破壊しよう、勲章としてエクステンドアイテムが出現する。これを取ると1UP。

3．狭い通路で敵が後方から追ってきたとき。

オプションを後ろにつけて、敵に体当りしよう。ただし機体に当たらないように注意。

警告

ゲルンガーは未知の生命体であるため、これ以外の質問にはいっさいお答えすることができません。
自力でクリアーしてください！

隊員証

写真貼付(3cm×4cm)
上半身脱帽・撮影
3ヵ月以内のもの

宇宙警備隊隊則に基づき、下記の者を戦闘機ラウンドウェーバー・パイロットと認めます。

氏名

住所

生年月日　　血液型　　型

身長　　cm　　体重　　kg

宇宙警備隊キャプテン

宇宙警備隊 SDF

SPACE DEFENDING FORCE

株式会社 HAL(ハル)研究所
〒101 東京都千代田区神田須田町2-6-5 OS'85ビル5F ☎03-252-6344

FOR SALE and USE IN JAPAN ONLY
本品の輸出、使用営業及び賃貸を禁じます。

ファミリーコンピュータ・ファミコン は、任天堂の商標です。